

総合型地域スポーツクラブにおける クラブマネジャーの業務実践とコミュニティに対する意識の関係 —地域課題の解決に向けた取組に着目して—

スポーツビジネス研究領域

5021A002-1 石井 尚紀

【研究背景】

わが国において、地域が抱える課題は多岐にわたっている。このような地域課題に対して解決に向けた取組を期待されている組織として、総合型地域スポーツクラブ(以下「総合型クラブ」と略す)がある。スポーツ立国戦略(文部科学省, 2010)、スポーツ基本計画(文部科学省, 2012)、第2期スポーツ基本計画(文部科学省, 2017)の具体的施策から、その期待が見てとれる。しかし、その期待とは裏腹に、スポーツ庁の総合型クラブに関する実態調査(2022)では、地域の課題解決に向けた取組を実践していない総合型クラブが目立つ結果となっている。総合型クラブへの期待と現実が乖離していることは研究でも指摘されてきている(小林・渡辺, 2003; 笹生, 2020; 柴田・清水, 2022)。こうした中、2022年に第3期スポーツ基本計画(文部科学省)が策定され、第2期スポーツ基本計画からの引き継ぎで登録・認証制度の運用開始が具体的施策に記された。2022年4月1日から運用が開始された登録・認証制度の「認証基準」は、スポーツを通じた地域課題の解決に向けた取組が基本的要件として設定される予定である(スポーツ庁, 2019)。ただ、スポーツを通じた地域の課題解決に向けた取組が捉える射程は不明瞭であり、その実態を明らかにする必要があると推測される。

【先行研究】

スポーツ政策において、地域課題にも対応するような住民主導型の総合型クラブが志向されているが、実際には総合型クラブ関係者、地域住民、行政、地域内の関係組織などのアクターの思惑が絡み合う複雑な様相を呈している。(嘉門, 2016; 後藤・森阪, 2006; 小林, 2012; 作野, 2000; 関根ほか, 2009; 谷

研究指導教員: 作野 誠一 教授

口・内倉, 2010)。したがって、総合型クラブをめぐっては、各アクターを調整する必要があるといえよう。この点について、田島ほか(2022)は、外部の団体との連携・協働における背景、プロセスを解明した研究が見られないと述べている。宮良・小島(2013)は地域社会の人的ネットワークの結節点となっている総合型クラブにおいて、多元的な役割をもつスポーツクラブのメンバーの分析の必要性をあげているが、クラブマネジャーが地域内の他組織や他団体と関係を構築している実証研究も報告されるようになってきている(稲葉ほか, 2015, 2016; 西原, 2012; 西村・作野, 2020)。さらに、クラブマネジャーを含む総合型クラブの運営に大きな影響を及ぼすリーダーの地域生活については、土着性、公共化の志向性、自治意識の強さが指摘され(後藤, 2009)、クラブ発展のカギを握るクラブマネジャーに関する研究知見が求められている。

【研究目的】

総合型クラブの地域課題の解決に向けた取組に着目し、クラブマネジャーの業務実践と地域社会やコミュニティに対する意識の関係を明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

本研究の目的を達成するために、量的調査(アンケート調査)による調査対象選定を予備調査として行い、その後の質的調査(インタビュー調査)による本調査を実施した。まず予備調査において、調査対象として所在地や連絡先を入手可能であった東京都の144クラブに郵送とメールによるアンケート調査の回答を依頼し、74クラブから回答を得た(回収率51.4%)。有効回答は72クラブで、50.0%の有効回答率であった。質問項目は、総合型クラブとクラブマネジャーの基本

属性、コミュニティ意識尺度（石盛, 2004）の短縮版（石盛ほか, 2013）、地域課題の解決に向けた取組を実践しているか否かの問い、その実践内容についての自由記述欄を設けた。次に本調査において、予備調査のコミュニティ意識の得点、地域課題の解決に向けた取組を実践しているという回答をもとに調査対象選定を行い、承諾を得ることができた5クラブのクラブマネジャーを対象に、半構造化面接法によるインタビュー調査を実施した。分析方法は、質的研究における質的データの分析手法である SCAT（大谷, 2008, 2011, 2019）を用いた。

【結果及び考察】

クラブマネジャーの地域課題の解決に向けた取組実践については、まず予備調査の結果から、実践しているという回答が88.9%と大多数を占め、地域の多様な組織や団体と連携・協働して取り組んでいる事例が確認された。次に本調査の結果から、クラブマネジャーが境界連結単位（佐々木, 1990）を担っていることが明らかになった。ただ、インタビュー対象のそれぞれの具体的な役割や関係組織には差異があった。そこで、境界連結単位における機能を援用して分類をすると、資源取引機能、情報プロセッシング機能、組織間調整機能が当てはまることが示唆された。また、機能の違いには、各クラブの設立背景や活動形態、自治体行政のスポーツ政策の方向性が関係していることがうかがえた。加えて、総合型クラブ以外の組織で境界連結単位を担っている事例があり、予備調査でもこのような回答が見られた。

続いて、クラブマネジャーの地域社会やコミュニティに対する意識については、予備調査の各クラブマネジャーのコミュニティ意識の得点において、「連帯・積極性因子」、「自己決定因子」、「愛着因子」に対して、先行研究で負の相関があった「他者依頼因子」が対照的な得点を示した。そして、本調査の結果から、クラブマネジャーの取組実践と地

域社会やコミュニティに対する意識の関係については、総合型クラブの活動や活動目的によって通時的に培われた地域社会やコミュニティに対する意識を保持することで、地域課題の解決に向けた取組実践に向かっていることが分かった。また、分析結果の理論に、コミュニティ意識尺度を参考にした「高連帯・積極性」、「低他者依頼」のコードがあったことから、総合型クラブの運営を一緒に進めていったり、総合型クラブに携わっている中で問題意識が芽生えたりすることによって、地域課題の解決に向けた取組の実践につながっていることが示唆された。さらに、新しい人材が今後地域課題の解決に向けた取組を実践する際に重要になる点として、地域社会やコミュニティに対する意識があげられた。そして、分析結果の理論に、コミュニティ意識尺度を参考にした「連帯・積極性」、「愛着」のコードがあったことから、運営を一緒に進めていく姿勢や総合型クラブが所在する地域社会への愛着の強さを持った人材が求められていると示唆された。

【結論】

行政以外の地域の多様な組織や団体とも連携・協働して地域課題の解決に向けた取組を実践している事例、地域内の他組織や他団体に活動している中でそうした取組を実践している事例が確認された。この結果は、総合型クラブにおける地域課題の解決に向けた取組の実態を理解するにあたっての基礎資料となるであろう。また、総合型クラブにおける人的ネットワークの結節点、外部の組織や団体との連携・協働に着目した研究の蓄積が乏しい中、クラブマネジャーが境界連結単位の機能を有していることが分かった。加えて、総合型クラブの活動や活動目的によって通時的に培われた地域社会やコミュニティに対する意識を保持することで、地域課題の解決に向けた取組実践につながっていることが明らかになった。これらの知見は今後の研究の足がかりになるものである。